

平成28年8月12日

厚生労働省障害福祉課
全国社会福祉協議会
全国身体障害者施設協議会
熊本県身体障害児者施設協議会
熊本県障がい者支援課
熊本市障害保健福祉課

御中

熊本県身体障害児者施設協議会
会長 三浦 貴子
(愛隣館)

熊本地震における支援等の状況報告について（27号）

7月25日～8月12日の報告をします。

支援協力者

- ① くまむた荘←苓龍苑：山田さん・松多さん。かんねさこ荘：大門さん・秋永さん。
- ② 被災地支援事業←福岡県慈久園：松尾さん、福岡県菊池園：山内さん・倉掛さん、山鹿市ボランティア連絡協議会：本田さん・小林さん・前田さん・淵上さん・藤壺さん・丸山さん・古家さん・谷さん、ベトナム育英会：秀嶋さん・川崎さん、横浜より大久保章さん、大久保静子さん、大久保仁美さん、中山さん。愛隣館スタッフ。

支援金 7月25日～7月31日

【熊本県身体障害児者施設協議会】肥後銀行 水道町支店 普通預金 2489873
・ナガタ理容室（滋賀県）、障害者支援施設出雲サンホーム（島根県）

【(福)愛隣園 熊本地震被災者支援口座】鹿本農業協同組合 山鹿支所 普通預金 0134907
・あおぞらの会（埼玉県）、障害者支援施設出雲サンホーム（島根県）

ご支援・ご協力まことにありがとうございました。

【活動と現状について】

(1) 支援報告

- ① くまむた荘への人的支援は、熊本県の各施設から7月30日まで派遣しました。

くまむた荘の柳田施設長、佐々木事務長、中西事業部長、久保田サビ管よりお礼の言葉が届いております。

今回の熊本地震では、被災したくまむた荘に対し、障害者支援施設協議会参加の各施設の皆様及び多方面の団体・個人の皆様から、たくさんのご支援と心温まる励ましのお言葉を頂きました。被災して改めて絆のありがたさを強く感じたところです。

くまむた荘では、ご利用者様の安全を最優先に、一刻も早い復興に向けて全力

を尽くしていきたいと考えております。
本当にありがとうございました。

② お見舞い訪問（8月4日）

○第二明星学園（御船町）

入所施設（旧法知的更生）、通所施設、グループホーム2棟が地盤から大きく被災の為、本部より車で30分程の小学校の廃校を利用したグループホーム（未被災）へ、全利用者が避難されていた。4月14日の前震で被害を受けたので、全職員が集まり、利用者を迅速に避難させて、生命を守れたとのこと。三日三晩不眠不休の職員に感謝されていた。

入所施設は建て直す他に方法はないものの、工事の人手不足で着手出来ず。周辺の倒壊家屋、土砂崩れの様子もひどい。

山崎施設長のリーダーシップで、直後から備蓄食を庭で地域住民にも振る舞い、助け合ったことが分かった。夜間の職員召集訓練が活かしたことも伺った。物資支援や人的支援が遠くからも届き、支えられてきたとのことである。

○熊東園（益城町）

永田施設長の自宅は屋根から潰されるような全壊となられたが、施設（旧法知的更生）は、基礎が強く、無事だったとのこと。

ライフラインが全て止まり、施設の運動場に300台程の車での避難を受け入れたそうである。八代学園からの弁当の差し入れに助かり、また、施設も車中避難者の方々に弁当を支援したと伺った。

ただ、職員の過半数が被災し、車中泊で勤務する状況と、利用者の方々不安定な状態、ライフラインが止まった事態の中で福祉避難所となる選択は出来なかったとのことである。

マスコミの取材が、「なぜ福祉避難所を開設しないのか？」の質問に集中し、その対応がどんなに辛かったかを話の中で感じた。

震災から3ヶ月が過ぎ、生活が定まらず離職した職員もあり、人員確保が重要課題と伺った。

○ひろやす愛児園（益城町）

広大な敷地を持つ、歴史ある児童養護施設は、町の指定避難所として一時は800人の方々を受け入れたそうである。まさに地域の拠点となられ、施設の開放、車中泊、野宿と様々な場所で多くの地域住民が危機を超えられた。震災直後は施設職員のみで避難者に対応され、3日後に町の職員が来てくれた時は、本当にほっとしたと伺った。

当法人の児童養護施設から届けた農業用ポリタンクが、生活用水として大変役に立ったとのことである。

ひろやす愛児園には、当支援報告にも度々登場の、美しの森幼稚園（横浜市）大久保園長とご家族がバザーで集めた支援金を持参されており、そのことにも深い感謝の意を表された。

(2) 会議他

- ① 7月26日、全国身体障害者施設協議会機関紙9月号に掲載される熊本地震に関する座談会を、城南町くまむた荘にて、白江副会長（仙台ありのまま舎）の進行の下、日野会長（千歳療護園）柳田施設長（くまむた荘）、三浦（愛隣館）で行いました。午後は、白江さんと柏田さん（全社協）を益城町と西原村の被災地・避難所等へご案内し、被災された方々と直接話して頂きました。
- ② 8月1日、第2回熊本地震支援会議を、熊本県身体障害児者施設協議会24施設の代表者で行いました。熊本県障がい者支援課 小佐井課長補佐、横山課長補佐、熊本市障がい保健福祉課 神永課長にも参加頂き、意見交換を致しました。この席で、全国から熊本県身体障害児者施設協議会口座に支援金として寄せられた5,129,943円の第2次分配案を協議し、支援活動に掛かった費用192,104円の支出と、被災8施設へのお見舞金が承認されました。被災の大きい3施設（熊本福祉工場・くまむた荘・たちばな園）へ50万円、その他5施設（能力開発センター・熊本県くすのき園・くまもと江津湖療育医療センター・朋暁苑・ゆめの里）へ20万円を分配させて頂きました。お寄せ頂いた皆様へ、深く感謝申し上げます。

(3) 地域支援報告

① 7月27日山鹿温泉リフレッシュ支援事業

西原村の皆さんの中には、「やっとうこういう（温泉行きの）行事に参加できる気持ちになりました」と最初で最後のご参加の夫婦のお姿も。そして2名の西原のボランティアを含めて全員素敵な笑顔。90才を超えておられる男性参加者が「家を新築している！」と元気なご様子にスタッフも励まされました。

益城・木山女性グループでは、どうしていいか途方に暮れていた時の温泉での時間は本当にありがたかった。いつになるかわからないけど、これから頑張っって少し落ち着いたら、必ず家族で山鹿温泉に泊まりに来るからと、温泉施設をご提供いただいたホテルのパンフレットと、お食事をご提供のお店の箸袋を持って再会を約束して下さいました。また、バラバラになった益城町婦人会の再結成に向かう集まりが山鹿で持てたと話されました。

② 7月30日山鹿温泉リフレッシュ支援事業

若葉小学校避難所の皆さんは、8月15日に避難所が閉鎖されるということもあり、「最後なので参加したいけど…」と残念ながら都合がつかず不参加の方が多かったとのこと。それでも「皆さんに会いに来ました」とうれしいお声もかけていただき、お礼の寄せ書きもいただきました。「温泉・食事・おしゃべり」効果を改めて実感しました。

益城町商工会倉庫避難所の皆さんは、「正式の避難所ではなく物資も不足する中、炊き出しやマットレスのご提供、そしてこの温泉事業とまるで親戚のように、この出会いから一生のお付き合いになると感謝しています。」と言って頂き、スタッフも皆、涙々でした。1歳から8歳の子供たち6人は、絵を描いてプレゼントしてくれました。絵のタイトルに「たくさんのおえが」とあり、嬉しかったです。

おわりに

発災から4ヶ月、昨日南阿蘇でただ一人の行方不明者、大和晃さんがご両親の捜索をきっかけに発見されました。改めて深くご冥福を祈ります。

7月末には、温泉リフレッシュ事業をたくさんの皆さまのご協力で事故・トラブル無く終えることができました。その時々言葉にできない程多様なふれ合いが生まれました。避難所の方々の「少し先の小さな楽しみ」が続くことに、温泉リフレッシュはなれたようです。

来週の日鹿灯籠祭の奉納女性神輿に、益城町の女性たちが参加します。乳児を含む3人ずつの子ども達を立派に避難所で育てている若いお母さん達です。「支援」という枠を超えてつながれることに喜びを感じます。

情報を共有することと、寄せられた貴重な支援を記録しなければと始めたこの状況報告を、お読み頂き、応えて頂き、さらに支援を拡げて頂いたことに心より感謝申し上げます。今後は、必要時にまたご報告させて頂きたいと存じます。本当にありがとうございました。

三浦貴子

(連絡先) 障害者支援施設愛隣館

TEL : 0968-43-2771

FAX : 0968-43-2793